

首里城再建と木材乾燥機

月報委員会
副委員長 馬田 勝之
(三幸林産株式会社)

2019年10月31日午前2時35分ごろ、那覇市首里当蔵町の首里城正殿から出火し、隣接する北殿と南殿、書院・鎖之間、黄金御殿、二階御殿、奉神門の7棟にも延焼し、正殿は全焼しました。

450年続いた琉球王国の政治や外交、文化の中心であり、国王やその家族が居住していました。火災で焼失したのは王国時代に3回、沖縄戦で4度目の火災に遭い、1992年に再建され、2000年には世界遺産に登録されました。

今回は5度目の焼失となりましたが、現在、2026年の再建完成を目標に復元工事中です。

今回、首里城再建のための木材乾燥機を首里城から離れた木材保管場所に設置することになり、令和5年4月4日～7日に現地に伺いました。

木材保管場所には約8mの丸柱用のヒノキの良材やケヤキ丸太が日本各地から集められて、宮大工さんたちの技術により再建の木材加工が始められていました。

木材乾燥機は外寸、長さ9200mm、巾2350mm、高さ2800mmでトレーラーに載せて東京から海上輸送にて運ばれました。

乾燥機の温度設定は約38～40℃、木材をやさしく温めながら水分を抜いていきます。

ヒノキ材などある程度天然乾燥されていましたが、含水率は30%程度でした。これらを20%以下にして使用されます。すべて重さも計り、比重による含水率も記録しているとのことでした。

首里城での木材乾燥を終えたら、この乾燥機は棟梁のもとで今後も活躍するそうです。

今回、首里城再建の現地には伺いませんでしたが、現在でも首里城は見学できるそうです。秋頃から正殿の再建が開始され、作業建物の中に見学スペースが設けられる予定とのことでした。

沖縄に木材の営業に来ていた仲間にも会って木材需要が多くあることも勉強になりました。復興途中の首里城は完成してからでは見られないので何度か訪れたいと思っています。

沖縄は他にもいろいろと魅力であふれていました。



ヒノキ丸柱用



乾燥機内



乾燥機の輸送



台車レールで搬出入



宮大工さんへ使用説明